

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174900439		
法人名	(有)グループホーム上野		
事業所名	陽だまりの家		
所在地	埼玉県秩父市大宮 5533-1		
自己評価作成日	平成22年3月27日	評価結果市町村受理日	平成22年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1194900054&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年4月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成21年10月に新ホームが完成。新ホームは自然に囲まれ、ホームから秩父市を一望出来る立地条件に恵まれている。また、最新の防火設備やエコキュート、IHの調理器具、食洗機、床暖房等が完備されており、利用者にとっては安全かつ快適な生活を送っていただける環境が整っている。また、職員にとっても安全かつ働きやすい職場となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

秩父市が一望出来る高台に、昨春秋、入居者の安心・安全・快適な暮らしを重視し、設備を整えた新しいホームが建っている(旧ホームより転居)。職員は趣味や特技を活かし、入居者の今出来る事、得意な事を見つけて出し、一緒に力を発揮出来るよう努めている。親身に傾聴をする事で要望をお聞きし、思いを支えるようにしている。誰でも手にとって見る事の出来る作品コーナーが有り、入居者が自分の作品を披露する等、張りのある生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット共通の理念が3項目明示している。毎朝のミーティング時に全員で理念を唱和し、利用者との関わり際に際して意識して取り組んでいる。	「利用者を尊重」「地域との交流」「よりよい介護を目指して」この三項目を毎朝職員が唱和し、共有している。現場で行き詰った時は、入居者の立場に身を置き換えサービスのあり方を見直している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住民として町内会に入会している。回覧板や近隣の人の会話を通して地域の人との交流している。	ホームが一つの班として町内会に入会し、回覧版会報等で地域の情報を得て、納涼会・運動会に参加している。近所の畑で収穫された野菜の差し入れ等の交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に施設を理解してもらうために、声掛け・挨拶を行い、気軽に見学に来て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い、詳細を説明してサービスの質の向上の為に色々な意見の交流を行っている。	定期的な開催にはなっていないが、関係各位の参加・協力を得て、次第に充実した取組みとなっている。会議に出席した方の発案で、民生委員30名の見学会を実施し、臭いの事で原因を調べ、改善され、新ホーム建設時に活かした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の中には生活保護受給者もいるため、市の担当窓口と相談して指導を受けたり、助け合いをして連帯を図っている。	事業所の取組みや実情をメール等で折にふれ報告し、返信も頂いている。今後も入居者の暮らし振り等をお伝えし、協力関係を築き、地域密着型サービスの向上に取り組んでいきたい。	今後も市町村担当者と連携出来るように、運営推進会議開催のお知らせや会議録を送付し、双方で情報提供をしようという継続した働き掛けが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中はかかっておらず、夜中のみになっている。身体拘束についてのケアはスタッフ同士で常に話し合い気を配っている。	身体拘束については職員間で常に話し合い、認知症専門医の指導も受け、徘徊の原因を詳しく観察する事で改善し又、傾聴を基本とした親身な対応で入居者の生活習慣を理解し、ケアに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習がある時は、積極的に受講するように心掛けている。又スタッフ間でも見過ごさないように話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者さんに必要がないが、いつでも活用できるよう講習を受けたりして体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される時、契約に関する詳細を説明し、家族や利用者さんの不安や疑問を取り除いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの意見は常に介護を通して反映させている。又家族の意見は、運営に反映させられるように努めている。	面会に来られない家族には、電話で様子を報告し、家族の意向を聞き、小さな事も繰り返し話し合い、ケアの改善につなげている。遠方の身内からの要望で、暮らし振りをお知らせし、喜んで頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一ヶ月に一回全体会議を開いているので、その中で職員の意見や提案を聞いて、反映させるように努めている。	月一回の全体会議で職員の意見・提案を聞いている。欠席者も書面参加している。日頃のフロア会議・ミーティングでも意見を述べ、現場の気づきから服薬の方法を変えたり、入浴後の排水の工夫で消臭につながる等の改善がみられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に管理者ケアマネから意見や希望を聞き、職員が向上心を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護を行う為に必要な研修を職員一人ひとりが受けられるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催する相談員の研修に積極的に参加し、同業者との交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で職員が努めて、声掛けや交流をして良い関係作りができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の前に家族の希望や要望を丁寧に聞いているが、入所後も声を掛けて関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人から希望を聞いたり、家族の人が必要としているケアを見極め本人の視点に立ったサービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの職歴、生活暦を考えて共にできる事はやって頂き、助け合う関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて、家族と密に連絡をとり、話し合い共に利用者さんを支えられるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から交流があった人達が訪ねてきて、話をしやすい環境・雰囲気に気をつけている。年賀状や電話等来た時も、家族に連絡し今までと同じ様な関係が続けられるよう努めている。	馴染みの友人や孫が訪ねて来ると、満面の笑顔で喜ばれる。職員は、訪問し易い雰囲気作りを心掛けている。地域の踊りのボランティアや、訪問美容室等、定期的に訪問下さる方も馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性もある為席順などを気をつけている。耳の不自由な人もいますが、スタッフが間に入って話をしたり関わりを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、家族から連絡があった時などは、必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ全員が利用者さんの希望をよく傾聴して、記録にとどめ実行できるように努めている。	傾聴し、本当の思いを聞けるように努め、家族からも暮らし振りを聞いて記録し、職員間で共有している。素敵な洋服を着せたい家族と、本人は病状変化で着脱困難、このギャップを繰り返し話し合い、理解して頂けるようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ同士が常に話し合い、利用者さんを理解できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りの時に、利用者さんの様子を細かく伝え、スタッフ全員が現状を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催して、利用者さんに必要なケアについて医師や看護婦さんの意見を聞きケアプランを作成している。	ケアは申し送りノート、職員間は連絡ノートに記録し、現場での気づきやアイデアを取入れやすい工夫をし、計画に反映している。受診時には前もって容体をファックスし、指示があれば現状に即した計画作りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録や状況記録に日々の様子やケアを記録しているが、詳細な様子は申し送りノートの記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんや家族の方の希望にできるだけ添えるように常に話し合い、利用者さん本位のサービスができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の人や消防の人に来所して頂き、入居者と話をしてもらったり避難訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけの医師の受診を受けられる体制になっている。又、主治医との連帯を密に取っている。	遠方のかかりつけ医へは家族の付添いをお願いし、報告を頂いている。入居時にそれまでのかかりつけ医を希望された方も、ホームに往診に来られる協力医と顔馴染みとなり、主治医変更を希望されるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんの細かい様子を把握して、心配な時はすぐに医師や看護師に相談して受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は常に利用者さんの様子が分かるように何回も面会に行ったり、病院関係の人とも常に連絡を取るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年に入って終末期のケアを行っている。家族の人へは密に連絡を取ったり主治医の指示に添ったケアを行うよう努めている。	重度化に伴う事業所の対応指針はないが、随時関係者と話し合い、主治医は四つの選択肢を説明し、希望が叶うように連携している。最後の看取りに元従軍看護婦の方が力を発揮したり、入居者が葬儀に参列する等の支援もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当への方法などの資料が置いてあり、職員は把握している。又できるだけスタッフ同志で検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消化訓練を行ったり、地震・水害が起きた場合を考えて話し合っている。又、地域の人々の協力が得られるように働きかけています。	災害マニュアルを活用し、役割分担を決めて行い、町会の防災訓練にも職員が参加している。今秋に消防署立会の訓練を計画し、ホーム新築時に防災設備を納入した業者からも取扱いの説明を聞くことになっている。	新ホーム周辺の方と新たな協力関係を築く為に、見学会の開催や、行事にご案内する等、災害時の協力が得られるような働き掛けが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライドを傷つけないよう、又人生の先輩として言葉掛けには十分気を付けています。記録も外部に漏れないようにきちんと管理しています。	一人ひとりの誇りを損わず、自己決定をし易い雰囲気作りに努めている。共感を促す為、秩父地方の方言を用いる事もある。自分はまだ若いと認識している方には、否定する事なく、状況に合わせた言葉掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り利用者の意思を聞いています。希望が言えない方も中にはいますが、ゆっくりペースで話をしたり、説明したりして思っていることを聞く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望や要望を取り入れて介護を行っているが、他の利用者の都合や状態により優先順位がかわることもある。希望を聞いても本人の意思が変わってしまう事もある為、様子をみながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	開所以来、訪問美容師にきてもらい散髪しています。毎日お化粧をしている方もいるので、おしゃれが持続できるように気を配っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士さんがたてた献立で調理しているが、利用者さんの希望を聞いて、調理もしている。できる事は声を掛けて手伝ってもらっている。	カロリー計算された食材が届く。入居者には皮むきやもやしのひげ取り等の準備を手伝って頂いている。食前にリーダーが前に出て体操をし、交替で「いただきます」の音頭をとっている。しゃくし菜の饅頭を皆で作る等、楽しい食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施記録に食事・水分量を記載している。栄養のバランスが取れる様に栄養士の人が作ったメニューを中心に調理している。食事が摂れない状態になったり嫌いな食べ物の場合は、メニューを変える工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨き、義歯洗浄を行ってもらっている。又定期的に歯科受診を行い、義歯や口腔状態の検査をしてもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ気持ちよく生活してもらう為に、トイレにて排泄に心掛けている。トイレの間隔が長いような方には、声掛けを行い様子をみながらトイレ誘導を行っている。	日中はリハビリパンツを使用し、排泄記録から定時誘導を促し、個別対応で自立排泄につながるよう努めている。トイレ誘導に応じない場合は、興味のある事に関心を向け、タイミングを逃さない工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便・排尿の様子を記入している。排便表を作成し、1～15・16～31日までの様子が9名分一目で解るようにしている。便秘気味の人には、牛乳を毎朝出し腹部のマッサージや、身体を動かして頂く様に働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的にはいつでも本人の希望に合わせて入浴できるようになっている。又、入浴中はゆっくり入浴してもらい、楽しんでもらう為に、声掛けをしたりしている。	希望に応じて毎日実施している。浴室が新しくなり、手摺の位置が変わった為戸惑っている方もいらっしゃり、声え掛けに注意している。入浴を拒む時は無理をせずタイミングを図って実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせて休息して頂いています。天気の良い日には布団を干したり、夜良く安眠できるように日中適度に身体を動かしてもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は誰でも見られるようにきちんとファイルしている。薬が変わるたびに申し送りに記載し、全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞の購読が出来るようにしたり、動物(猫)や植物の世話を通じて楽しみを持って頂いたり、編み物や縫い物などを希望に合わせてできるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候・身体状況に合わせて希望に添った外出が出来る様に支援しています。	お花見や秩父夜祭りの頃は、看護学生の実習期間と重なり、支援をしてもらい見物に出掛けている。納涼祭では秩父伝統の民謡を歌い、全員で踊り、楽しみ、天気の良い日は買い物や回転寿司等の外食も楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことでのトラブルを避けるために、施設ではお金を預っています。但し必要に応じて買い物に行った時など職員と一緒に支払う人もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望、要望をよく聞き電話や年賀状などを送れる様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房やコタツを使用したり、ホールや廊下には光が入るように天窓が付けられている。ホールの大窓からは市内の景色を見渡せるようになっている。	広いリビングは床暖房になって、和室に炬燵を設え、昼寝をする場所となっている。天窓から自然の採光を取り入れ、和らいだ空間となっている。又、リビングの一隅に展示棚があり、編み物、縫物、書道の作品が並べられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が各自、自分の部屋を持っていますのでその時の気持ちに合わせて過ごして頂いています。又、気のあった人達の席を近くにして、話しやすい居やすい環境づくりに気をつけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族の方や本人と話し合い希望した物や思い出深い物を持ってきてもらっています。又、後日必要に応じて購入したりして出来る限り個々にあった住みやすさを工夫しています。	居室のベッドは事業所で設置しているが、入居者の使い慣れた物の持ち込みは自由で、それぞれ工夫した配置となっている。オルガンのある居室では懐かしい曲を弾いて楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人に出来ることを見極め、声掛けをしながら豊かな生活ができるように支援している。又混乱や失敗した時の支援・方法もスタッフ同志で話し合っている。		